

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600041	事業の開始年月日	平成18年10月1日	
		指定年月日	平成18年10月1日	
法人名	ALSOK介護株式会社			
事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北II			
所在地	(〒245 -0018)			
	神奈川県横浜市泉区上飯田町3795-1			
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和3年11月4日	評価結果 市町村受理日	令和3年12月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームは閑静な住宅街にあり、目の前には小学校があります。平日は子供たちの明るく元気な声が響き渡ります。
 ・ホーム内では、お好みに合わせたレクリエーションや天気の良い日はテラスでの外気浴や体操等を行っています。
 男性・女性に関わらず家事なども率先して行って下さる方もおります。
 ・お一人おひとりの声に耳を傾け、お気持ちを汲み、ご自分のペースで、日々穏やかに過ごしていただけるよう支援しています。
 ・現在、新型コロナウイルスの流行の影響によりボランティアや地域の方々の訪問はご遠慮させていただいております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年11月25日	評価機関 評価決定日	令和3年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇利用者の「～したい」を大切にした支援 ・利用者の「～したい」という意欲を受け止め、洗濯物干しや食器拭き、掃除など、その人の得意とすること、自信のあることを楽しみながら手伝ってもらっている。作業が不完全で職員が少し手直しをすることもあるが、利用者の機能維持や向上が図られており、感謝を伝え張り合いのある生活を送ることができるよう支援している。 ・自ら志願して、昼食前の口腔体操の指揮を執っている利用者は、会話がしっかりし、歩行も以前より力強くなってきた。 ・この活動が定着し、「何かやることない？」と尋ねる利用者が増え、利用者の意欲を引き出したり、主体的に生活することに繋がってきた。 ◇職場の穏やかな雰囲気 ・管理者を含めて職員間のコミュニケーションがよく、職員同士で気軽に意見を言いやすい雰囲気がある。その穏やかで和気あいあいとした職場の雰囲気が利用者のケアにも良い影響を与え、利用者は日々在宅のときと変わらない安らぎのある生活を送っている。 【事業所が工夫している点】 ◇コロナ禍でのレクリエーション ・コロナ禍で外出や地域との交流が難しい中、法人が配信するリモート体操やタオル体操に参加し体を動かしている。また、法人のグループホーム間でオンライン盆踊りやオンライン運動会を開催し、レクリエーションを楽しんでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	GHみんなの家 横浜飯田北Ⅱ
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・行動指針は、常に意識できるよう、ステーション内に掲示しています。	・理念「ゆっくり・一緒に・楽しく・わがままに」を玄関と事務室に掲示し、共有化を図っている。 ・職員は常に利用者の気持をくみ取り、ときにはわがままも聞き、おだやかな日々を過ごしてもらうよう、ケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス流行の影響により地域の方々との交流を一時中止させていただいております。状況が緩和された際には地域の行事への参加や、ホームでの催しにもお誘いさせていただきます。	・町内会に加入しており、求人広告を回覧してもらったことがある。 ・隣の小学校の児童が毎月手紙を持参してくれる。また、小学校の運動会に利用者と職員が参加したり、こども神輿が来たりもしているが、コロナ禍で中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職業体験学習の受け入れを行っていましたが、今年度も中止となっています。散歩時、地域の方々とお会いした際は挨拶を交わすよう心掛けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催してはいましたが現在は書面にてケアや行事など、具体的な取組み等の報告をしています。	・運営推進会議は、2か月ごとに開催しているが、現状は、コロナ禍のため書面会議とし、活動状況報告書を町内会長、区役所、地域ケアプラザに配付している。 ・激励と感謝の返信が届くことがある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には、区役所に出向いています。生活支援課の担当者とは必要に応じて連絡を取り合っています。	・区の高齢・障害支援課とは活動状況や介護保険の更新で、生活支援課とは生活保護者の病院の受診や入院について、必要に応じ連絡を取り助言や指導を受けている。 ・職員は、区主催の消防のセミナーに参加しているが、コロナ禍で中止している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に月1回「虐待防止」委員会を開催し、その中で拘束についても話し合い、拘束を行わないケアに取り組んでいます。玄関や窓等防犯上施錠している場所はありますが、ご希望に応じ、すぐに開錠できるようになっています。	・2か月に1度、身体拘束廃止委員会を開催し、どのような行為が拘束の対象になるかを学び、ベッドに拘束されたらどう感じるかを体験するなど、知識や理解を深めている。 ・職員はスピーチロックにも注意し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会では「虐待とは」を学び・考え、確認し合い、全職員で虐待防止、虐待のないケアに取り組んでいます。	・2か月に1度、虐待防止についての委員会や研修会を開催している。 ・研修会で、何が虐待にあたるか具体的な事例で学び、定期的にケアの内容を見直している。 ・研修会ではテストも実施し、理解度をチェックしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時にはいつでも対応・相談できる体制をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書を郵送し目を通してもらっています。 入居当日、疑問・質問などをお尋ねし可能な範囲でお答えし納得を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催し、ご意見ご要望を伺い、できる範囲で運営に反映していましたが、現在は家族会は一時停止しており、電話などを利用しご意見・ご要望をお聞きしています。	・コロナ禍前は、家族の意見・要望を、主に年2回の家族会で聞いていた。現在は、家族の来訪時や電話連絡時に意見や要望を聞き出し、検討のうえ運営に反映している。 ・コロナ禍であり、家族の要望で窓越しの面会を実現した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス等では、参加職員が意見を出しやすい環境づくりや、日々コミュニケーションを図るよう心掛け、会議の場だけでなく多くの意見・要望・提案を聞き、可能な範囲で事業所運営に取り入れています。	・管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心掛け、何でも言える雰囲気づくりに努めている。 ・職員から出された業務効率化の意見や休憩時間帯についての要望は、会議で話し合い、可能なものは運営に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意分野を見極め、他の方に伝達できるような環境づくりを目指しています。勤務姿勢・介護技術・知識などを踏まえ、毎年人事考課を行っています。できる限り、本人の希望に沿った働き方や環境の調整を行っています。	・管理者は年に1度、人事考課を行い、職員の成果や努力を評価している。 ・法人は、各種研修（新入社員、接遇マナー、ブラッシュアップ等）を用意し、職員が向上心をもって働けるよう努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在研修への参加は控えておりません。個々の介護力や知識を把握し、都度指導しています。	・新人に対して、法人はオンラインでの講習と実技講習を実施し、現場ではベテラン職員が約1か月、OJTにてケアの技術を指導している。 ・法人は、初任者研修・実務者研修を用意し、模擬試験を行うなど、職員の資格取得を支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在外部で行う研修や連絡会に参加は控えております。法人内の管理者とは必要に応じ、電話やメールで情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅の方に関しては、入居前にご本人様とお話しする時間を作り、少しでも不安や心配がなく安心して過ごせるようお気持ちを配慮しています。入居後はコミュニケーションを図り、お気持ちを尊重し安心できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅の方に関しては、入居前に、ご本人様・ご家族様と面談し困っていることや心配・入居の経緯・ご要望等を伺っています。 面談後も連絡が取れるような体制を整え、不安等がないよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後は、環境の変化により暫くの間不安や心配がみられることがあります。 都度状況・様子を拝見しながらどのような支援が必要かを見極めて対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人のできること、得意なこと、役割等を見出しています。 また、共感・理解できる関係が築けるよう、傾聴や談話等でコミュニケーションを図っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の写真付一言通信、不定期での個別通信、ブログなどを利用し、生活の様子を伝えています。 また、必要に応じ個別で様子や身体面のご連絡を行うこともあります。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、ご家族様の年賀状や電話等にて、やり取りをして関係がとれるように支援しています。	・希望により電話の取次ぎ、年賀状や手紙の作成も支援し、馴染みの人との関係が、途切れないよう支援している。 ・毎月、個々の様子が分かる写真を載せた「飯田北Ⅱ通信」を、家族に郵送している。	・コロナ禍でも安心して利用者と家族が、顔を合わせて話ができるよう「オンライン面会」の導入が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性や個性、性格などを考慮し孤立せず過ごせる様レクリエーションや食席などを検討しています。また一つの作品を入居者様同士が共同で作らげたり、役割をもって生活ができるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで同様の生活が送れるよう、ご意向に沿い、何かあれば相談できるように支援しています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様一人ひとりの日常生活の様子やご本人様とお話の時間を設け、意向や思いを把握して、生活記録や申し送り時情報を共有し、心地よい生活を支援するよう努めています。	・職員は常に利用者に声をかけ、会話から思いや意向を把握しており、困難な場合には、表情や仕草から判断している。 ・洗濯物干し、食器拭き、掃除など、終了後少し手直しが必要でも、思いをくみ取り、やりたい利用者任せにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にお聞きした情報や、生活の中からも情報を得られるように取り組んでいます。また、得た情報は、職員間で共有をはかっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や申し送り、記録から、現状、生活状態の把握を行うとともに心身の状態の変化にも気付けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様子や心身の状態などを踏まえ、カンファレンスを行い、ケアについてを話し合っています。介護計画作成時にはご本人様・が家族様のご意向も伺い計画書を作成しています。変化が見られた際は、状況に応じて見直しを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画は、アセスメントとモニタリングを基にカンファレンスを行い、利用者と家族の意向を反映して、3か月ごとに作成している。 ・計画は3か月ごとに見直し、6か月で更新するが、退院後など状況変更時には都度見直している。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録、健康状態は健康管理表、その他については申し送りノートなどを利用して、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一部、外出や外部からの訪問に関しては、制限がありますが、法人内のシニアセラピーや訪問理美容等の利用なども、行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域やボランティアの方々の訪問をご遠慮させていただいています。状況により訪問理美容や地域の介護タクシーなどを利用しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医について説明し、納得・同意の上、事業所の訪問診療医を利用させていただいています。病状によっては、入居前からのかかりつけ医に継続して通院されている方もいらっしゃいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に利用者と家族の同意を得て、全員が協力医をかかりつけ医とし月2回の往診を受けている。 ・訪問看護師は週1回、歯科医が月2回の訪問診療がある。 ・専門医へは、原則家族が付き添うが、必要に応じて職員が対応し、情報の共有をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師が訪問し、健康管理を行っています。心身面の情報は、個別記録と口頭にてお伝えし、必要に応じて医師への連絡も行っていきます。身体面の状況により訪問看護の利用も可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族様、病院と連携を図り必要な情報を提供しています。また、面会に伺い様子をお聞きしています。退院時には病院関係者との話合いに同席しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る方針を説明し同意を得ています。重度化・終末期のケアにおいては、主治医、家族様、職員が十分に話し合い取り組んで参ります。病状変化時には、都度話し合い支援方針を確認しております。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に本人と家族に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明し、同意を得ている。 ・重度化した場合は、家族、医師、看護師、職員が連携し、意思を確認、方針を共有して支援する体制ができており、看取りの実績もある。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、職員がいつでも閲覧できるようになっています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの指導を得て、隣接する法人内のグループホームと共同で避難訓練を行っています。訓練終了後は共有の屋外テラスを使用し助言・指導を頂いております。近くに在住の職員の協力が、得られる状況にもあります。	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する同一法人のグループホームと、夜間想定も含め年2回、消防署員の立会いのもと避難訓練を行っている。避難誘導に地域の消防団員の協力もあるが、コロナ禍で中止している。 ・災害時に、近くに居住する職員の協力が得られる体制ができています。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のお気持ちを優先し、個々に合わせたお声かけ等、プライバシーに配慮した対応を行っております。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は接遇マニュアルで、プライバシーの確保と人格の尊重について学び、利用者の誇りを損ねない言葉かけや対応を心がけている。 ・職員間の申し送りなど、利用者に関する話をするときには利用者の耳に入らないようにしている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がすべて決めるではなく、入居者様が「どうしたいか」のお気持ちを最優先に、日常生活の中で小さなことでも自己決定できる場面を作るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはありますが、本人のペースに合わせた生活リズムを大切にしています。 また入居者様の心身状態を把握しながら、ご自分のペースで過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りやスキンケア等その方に合わせて行っております。定期的に訪問理美容が来られ、カット・毛染め顔そり等、ご自分のお好みに合わせて注文して頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	談話などを交え、楽しく和やかに食事が出来るよう心掛けています。 無理のない範囲で、洗い物や食器拭き等を一緒に行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・業者から食材配送を受け、調理している。利用者の嚙下状態に応じトロミ食やムース食、刻み食を提供している。 ・誕生会の特別食やおやつは利用者の希望を聞き、職員が作っている。 ・食器洗いや下膳など手伝ってもらい、張りあいや自信に繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の持っている力を活かしておやつ作りを手伝ってもらい、共に味わい、楽しみ、前向きな気持ちを引き出す一助とすることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し確認・把握し特に水分摂取量が少ない際は、こまめに補給していただいています。食事形態は状況により医師、歯科医と相談し、その方に合わせた食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に合わせた口腔ケアを行っています。週1回歯科衛生士が口腔内の状態観察を行い、月2回医師が訪問し必要な際は治療・義歯調整等を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し、お気持ちを配慮しながら、その方に合わせた介助を行っています。出来る限り、トイレでの排泄が継続できるよう、お声かけ・誘導・介助などの支援を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレでの排泄を基本と考え、排泄パターンや様子を観察し、トイレへの声かけ、誘導をしている。 ・夜間は一律オムツ使用ではなく、トイレ誘導をする利用者や一人でトイレに行く利用者もいる。 ・ズボンの着脱、排泄介助など自立に向けた支援をしている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけ排便状況の把握を行っています。できる限り自然排便が促せるよう、水分を多めに摂取して頂いたり、体操をしたり便秘予防に努めています。必要に応じて医師にも相談しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があるときはいつでも入浴できるようになっています。入浴時には体調や安全面に配慮し、入浴できない際は足湯や清拭等を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は原則週2日とし、希望があればいつでも対応している。 ・体調や安全面を考慮し、足浴や清拭、機械浴での支援もしている。 ・入浴が楽しくなるような言葉かけをしたり、思い出話を聞いて、ゆったりとした時間を過ごしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに応じて、必要な時には、居室で休息していただいたり、レクリエーション等で日中の活動を増やしたりしています。夜間安眠できるよう照明や温度管理にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個別にファイルし、職員が把握できるようになっています。不明な点は医療機関、薬剤師に連絡が取れる体制になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできること、得意なことを見出し把握し、日常生活に取り入れたりしています。お好きなこととお聞きし、レクリエーションとして楽しんだりします。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いときには、小学校の周りを散歩したり、テラスで外気浴を楽しんだりします。買い物等の外出は控えさせていた頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で遠くへの外出はできないが、事業所周辺の散歩や、外気浴により気分転換を図っている。 ・法人が配信するリモート体操やタオル体操を楽しんでいる。 ・隣接する同一法人のグループホームとの共用オープンテラスで、職員同席の下、利用者同士で会話をすることもある。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事業所が行っています。必要に応じ、日用品購入は行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話や手紙の希望があった際は柔軟に対応支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、季節に合った作品を入居者様と作成したり、飾ったりしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居間は利用者が快適に過ごせるよう、冷暖房の調整、加湿や換気に留意している。 ・居間にソファを置き、気の合った利用者同士がくつろぎ、談笑する交流の場としている。 ・毎日、居間の掃除を行う職員を手伝う利用者もいる。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置しテレビ鑑賞や談話等くつろぎのスペースにならっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使用していた物や思い出の写真などをお持ちいただき、入居前と変わらず安心して過ごせるよう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、ベッド、クローゼット、タンス、洗面台、カーテンが設置された居室に、利用者は思い出のある使い慣れた家具や置物持ち込み、壁には家族の写真を飾り、自宅の延長のような雰囲気としている。 ・職員が行うリネンの交換を手伝う利用者もいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分りにくい場所（トイレや浴室等）の表示をして場所が分かりやすいよう工夫しています。 危険な個所にはクッション材やマットを利用し安全・安心に過ごして頂ける様工夫しています。		

事業所名	GHみんなの家 横浜飯田北Ⅱ
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・行動指針は、常に意識出来るよう、ステーション内に掲示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス流行の影響により地域の方々との交流を一時中止させて頂いております。状況が緩和された際には地域の行事への参加や、ホームでの催しにもお誘いさせていただきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職業体験学習の受け入れを行っていましたが、今年度も中止となっています。散歩時、地域の方々とお会いした際は挨拶を交わすよう心掛けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催してはいましたが現在は書面にてケアや行事、具体的な取り組み等の報告を指せて頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には区役所に出向いています。生活支援課の担当者とは必要に応じて連絡を取り合っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に月1回「虐待防止」委員会を開催し、その中で拘束についても話し合い、拘束を行わないケアに取り組んでいます。玄関や窓等防犯上施錠している場所はありますが、ご希望に応じ、すぐに開錠できるようになっています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会では「虐待とは」を学び・考え、確認し合い、全職員で虐待防止、虐待のないケアに取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時にはいつでも対応・相談できる体制をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書を郵送し目を通して頂いています。 入居当日、疑問・質問などをお尋ねし可能な範囲でお答えし納得を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催し、ご意見ご要望を伺い、出来る範囲で運営に反映させて頂いておりましたが、現在は家族会は一時停止させて頂いており、電話などを利用しご意見・ご要望をお聞きしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス等では、参加職員が意見を出しやすい環境づくりや、日々コミュニケーションを図るよう心掛け、会議の場だけでなく多くの意見・要望・提案を聞き、出来る範囲で事業所運営に取り入れています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意分野を見極め、他の方々に伝達できるような環境づくりを目指しています。勤務姿勢・介護技術・知識などを踏まえ、毎年人事考課を行っています。出来る限り、本人の希望に沿った働き方や環境の調整を行っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在研修への参加は控えさせて頂いております。個々の介護力や知識について把握を行い、都度指導させて頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在外部で行う研修や連絡会に参加は控えさせて頂いております。法人内の管理者とは必要に応じ、電話やメールで情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅の方に関しては、入居前にご本人様とお話しする時間を作り、少しでも不安や心配なく安心して過ごして頂けるようお気持ちを配慮しています。入居後はコミュニケーションを図り、お気持ちを尊重し安心出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅の方に関しては、入居前に、ご本人様・ご家族様と面談し、困っている事・心配・入居の経緯・ご要望等を伺っています。 面談後も連絡が取れるような体制を整え、不安等がないよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後は環境の変化により暫くの間不安や心配がみられることがあります。 都度状況・様子を拝見しながらどのような支援が必要かを見極めて参ります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人のできる事、得意な事、役割等を見出しています。 また、共感・理解が出来る関係を築ける様、傾聴や談話等でコミュニケーションを図っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の写真付一言通信、不定期での個別通信、ブログなどを利用し生活の様子を伝えています。 また、必要に応じ個別で様子や身体面のご連絡を行うこともあります。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、ご家族様の年賀状や電話等にてやり取りをして関係がとれるように支援している。 携帯電話を所持し、お好きな時に電話で連絡をとられている方もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性や個性、性格などを考慮し孤立せず過ごせる様レクリエーションや食席などを検討しています。また一つの作品を入居者様同士が共同で作らげたり、役割をもって生活ができるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで同様の生活が送れるよう、ご意向に沿い、何かあれば相談できるように支援しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様一人ひとりの日常生活の様子やご本人様とお話の時間を設け、意向や思いを把握して、生活記録や申し送り時情報を共有し、心地よい生活を支援するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にお聞きした情報や、生活の中からも情報を得られるように取り組んでいます。また、得た情報は職員間で共有を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や申し送り、記録から、現状、生活状態の把握を行うとともに心身の状態の変化にも気付ける様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様子や心身の状態などを踏まえ、カンファレンスを行い、ケアについてを話し合っています。介護計画作成時にはご本人様・が家族様のご意向も伺い計画書を作成しています。変化が見られた際は、状況に応じて見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録、健康状態は健康管理表、その他については申し送りノートなどを利用し、職員間で情報共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一部、外出や外部からの訪問に関しては制限がございますが、法人内のシニアセラピーや訪問理美容等の利用などは行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域やボランティアの方々の訪問をご遠慮させて頂いています。状況により訪問理美容や地域の介護タクシーなどを利用しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医について説明し、納得・同意の上、事業所の訪問診療医を利用して頂いています。病状によっては、入居前からのかかりつけ医に継続して通院されている方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師が訪問し、健康管理を行っています。心身面の情報は、個別記録と口頭にてお伝えし、必要に応じて医師への連絡も行っています。身体面の状況により訪問看護の利用も可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族様、病院と連携を図り必要な情報を提供しています。また、面会に伺い様子をお聞きしています。退院時には病院関係者との話合いに同席しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る方針を説明し同意を得ています。重度化・終末期のケアにおいては、主治医、家族様、職員が十分に話し合い取り組んで参ります。病状変化時等は都度話し合いを行い支援の方向方針を確認しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、職員がいつでも閲覧できるようになっています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの指導を受けて隣接する法人内のグループホームと共同で避難訓練を行っています。訓練終了後は共有の屋外テラスを使用し助言・指導を頂いております。職員も近くの方がいるので協力は得られる状況にもあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のお気持ちを優先し、個々に合わせたお声かけ等、プライバシーに配慮した対応を行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がすべて決めるではなく、入居者様が「どうしたいか」のお気持ちを最優先に、日常生活の中で小さなことでも自己決定できる場面を作るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはありますが、本人のペースに合わせた生活リズムを大切にしています。 また入居者様の心身状態を把握しながら、ご自分のペースで過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りやスキンケア等その方に合わせて行っております。定期的に訪問理美容が来られ、カット・毛染め顔そり等、ご自分のお好みに合わせて注文して頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	談話などを交え、楽しく和やかに食事が出来るよう心掛けています。 無理のない範囲で、洗い物や食器拭き等を一緒に行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し確認・把握し特に水分摂取量が少ない際は、こまめに補給して頂いています。 食事形態は状況により医師、歯科医と相談し、その方に合わせた食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に合わせた口腔ケアを行っています。 週1回歯科衛生士が口腔内の状態観察を行い、月2回医師が訪問し必要な際は治療・義歯調整等を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し、お気持ちを配慮しながら、その方に合わせた介助を行っています。出来る限り、トイレでの排泄が継続出来るよう、お声かけ・誘導・介助などの支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけ排便状況の把握を行っています。出来る限り自然排便が促せるよう、水分を多めに摂取して頂いたり、体操をしたり便秘予防に努めています。 必要に応じて医師にも相談しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望がある時はいつでも入浴できるようになっています。入浴時には体調や安全面に配慮し、入浴できない際は足湯や清拭等を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに応じて、必要な時には、居室で休息していただいたり、レクリエーション等で日中の活動を増やしたりしています。夜間安眠できるよう照明や温度管理にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個別にファイルし、職員は把握できるようになっています。不明な点は医療機関、薬剤師に連絡が取れる体制になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事、得意な事を見出し把握し、日常生活に取り入れたりしています。お好きなことをお聞きし、レクリエーションとして楽しんだりします。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には、小学校の周りを散歩したり、テラスで外気浴を楽しんだりします。買い物等の外出は控えさせて頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事業所が行っています。必要に応じ、日用品購入は行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話や手紙の希望があった際は柔軟に対応支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、季節に合った作品を入居者様と作成したり、飾ったりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置しテレビ鑑賞や談話等くつろぎのスペースになっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使用していた物や思い出の写真などをお持ち頂き、入居前と変わらず安心して過ごして頂ける様支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分りにくい場所（トイレや浴室等）の表示をして場所が分かりやすいよう工夫しています。 危険な個所にはクッション材やマットを利用し安全・安心に過ごして頂ける様工夫しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
みんなの家・横浜飯田北Ⅱ

作成日 令和 3年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	おやつ作りへの参加	入居者様と共におやつ作りをする	おやつレク等のイベントを行う	6か月
2	20	オンライン面会導入に関して	オンラインを利用した面会ができる環境作り	本部・本社が決定する事なので、ホームの判断では行えません。	未定
3					
4					
5	20				

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。